

ふくしまの旧家・歴史ある建物を訪ねて



杉柁の天井、梅の彫刻を施した欄間も豪華な和館の次の間。艶やかな刺繍の着物は、どちらも婚礼衣装。白は文久3年(1863年)生まれの曾祖母、赤は明治生まれの祖母が着たという

幸せが長く続くよう七福神など縁起物に願いを込めた和館
計100人の七福神や鶴亀、松竹梅龍など板戸や欄間に施された彫り物が見事な和館は、一方で広縁の吹き寄せ垂木やぼかし入りの擦りガラスなどから優しさも漂う。「曾祖父はお婿さんだったので曾祖母の意見も入っていたんじゃないでしょうか」とトキ子さん。「おめでたいものに囲まれた家を建てて幸せが長く続くようにと願った曾祖父のことを思うと、皆さんに来ていただけるのはうれしいこと。公開日には、ぜひお越しください。曾祖父も喜ぶと思います」



伊達郡国見町藤田北11
開町主催のイベント時に
洋館のみ公開する場合あり
問 ☎ 024-585-2967
(国見町まちづくり交流課)



案内人が
みた
見どころ

洋館天井のレリーフ

日本の伝統美とは明らかに異なる、天井の優美で華麗なレリーフ。白漆喰かと思いきや木彫。検討を重ねたであろうサンプルも残されている



年1回のペースで開催している研修会。昨年は飯坂温泉の「飯坂ホテル聚楽」が保存している国登録有形文化財で、皇族方の宿となっていた「花水館 奥の間」と茶室「坐忘庵」を訪れた

会の活動を通し旧家・古民家のファンが増えることに期待
大震災の年から2年後、福島市内に点在する旧家や歴史ある建物を所有する人たちが複数回集まり、受け継いで行く重みや維持管理の大変さなど、所有者ならでは思いを語り合った。壊したら二度と造れない建物を後世に引き継ぐためにも、「活かすこと」を考えていきたいと、名称を「ふくしまの旧家を活かす会」として平成26年に発足した。同会の会長で「嶋貫



「ふくしまの旧家を活かす会」
会長 島貫 倫さん

「旧家も古民家も壊したら再び造れないものばかり。皆さん本気です」。会を通して人と人が繋がり、町の歴史、文化職人の技を記憶する。人の心を癒やす原風景、旧家・古民家のファンが増えていくことを期待しながら活動している。

本家」を守る島貫さんは「これまで出会うことになかった方々と知り合えただけでなく、専門家の意見を聞いたり、普段行けないような場所に研修で出かけたたりできる貴重な会です」と話す。
メンバーは現在31名。建物の持ち主だけでなく棟梁、公務員、主婦などさまざま。また立場の人がいる。平成27年には福島市近郊の旧家をまとめたブックレット「信夫の里の旧家をたずねて」(県内の書店などで販売。一冊648円)を執筆した。

歴史、文化、技を記憶し、人の心を癒やす 原風景としての建物を活かしながら残す

ふくしまの旧家を活かす会